１日目「小空間のインテリアと設計」

欠かせない周辺住民の合意形成

午前中は２部構成。前半はワシントン大学、マイケル・ピヤトック氏による講義で、インテリアを演出する内装材の事例をスライドを使って解説。米国よりは数段狭い日本住宅でもそのまま応用できそうなものもあり、実践性の高い説明であった。約90平方メートルの集合住宅で、家賃600ドル／月。米国の平均月収を考えると、日本とさして変わらないようだ。

第２部はミスーン・パートナーズ社（シアトル市、建築設計会社）のブライアン・クロスワード氏による集合住宅の施工事例の紹介。特に、今回は比較的狭い住宅を中心にした集合住宅にスポットを当て、日本での施工実情に近いものが取り上げられた。

なかでも、関心をよんだのは、集合住宅の建設にあたっての周辺住民とのコンセンサスの取り方。米国では住環境が自宅の資産に影響するという考え方が日本よりも強く、新築建造物に対する周辺住民の関心は高い。行政当局も周辺住民の理解や同意を重視しており、合意形成のための手間を省くことは少々リスキーと言っても過言ではない。

この「合意形成」は周辺住民だけではない。居住者においても図られなければならない。さまざまな民族で構成されている米国社会では、ひとつの共同住宅に異なった人種の市民が住むことが普通だ。人種が違うということは、携えている文化も違うことも多く、デザイン、空間の使い方などが違っていてもおかしくない。

「施工前にかならずデザインを提示。想起できるテーストをいくつか用意した上で、周辺住民や居住者の意見をまとめていく。ケースバイケースだが、３、４回、そのような場を設けている」。自信たっぷりに語るクロスワード氏に対して、「そのようなことをしていると、手間がかかり、結果的に利益も減ってしまうのではないか」という質問が続いた。「それをやらないで、作った後にもめたら、もっと高いものについてしまう」。グラスルーツ（草の根民主主義）の国、アメリカらしい手法である。ちなみにこの説明会のためのコストは施工費全体の10%を占めるという。高いとみるか、保険として安いと考えるか、評価の別れるところだ。

午後は２つの現場を視察。最初のは28戸を抱える集合住宅。といっても日本のアパートスタイルではなく、戸建住宅をつないだ長屋形式。平均床面積は46坪、１階が駐車場で、２階、３階は居住空間になっている。シアトル郊外の丘陵地を切り開いたサイトは、中央に小川が流れており、それを活かすことが開発認可の条件になっている。

「もっとも腐心した点は」との質問に「一つひとつの家が独立したものであることを印象づけられる外観を考えた」との返事がクロワード氏から返ってきた。個性を大切に考える米国では、さもありなんというところだが、住宅にどのような味を添えられるかは、日本の工務店にとっても大きなテーマである。

集合住宅の弱みのひとつがデザインの画一性、単調さだとすれば、今回の視察はその解決方法にもなろう。

２番目の視察は「サバナ」と名付けられた20戸から成る宅地開発。平均床面積は70～77坪。最初のものより広めで、いっそう戸建風のモデルが多いが、ここでも住戸の間は狭く、デュープレックスタイプに近い外観だ。「つながっているようで、独立している」デザインがポイントのひとつ。

エネルギー規制に厳しいワシントン州では、２×６材を使った壁が主流となっている。この場合、窓も床面積の21%まで使うことが可能となるため、開放的で明るい空間が高断熱で実現できるようになる。輸入住宅といえば「２×４」材が当たり前の日本だが、高断熱によるメリットがきちんと明示されれば、日本の施主にも受け入れられるかもしれない。「住宅の質」とはなにか。作り手、住まい手によって、定義する内容は異なるかもしれないが、時間と共に変化することだけは間違いない。

経済が活況を呈する米国では地下の上昇が著しく、特にシアトルでもその傾向は強い。住宅１戸のロットも小型化しており、有効なサイトプラン、デザインが求められている。住宅の小規模化という点では日本に近づいているわけで、そのような米国の家づくりを見ることは、日本での施工に役立つことも多い。

現場視察したシアトル郊外の宅地開発

２日目「集中換気システム」

２日目は、集中換気システムのセミナー（午前中）と現場視察（午後）を行なった。講師はダン・ウィリアムズ氏（ユニバーサル・テクノロジー社長）で、同社は日本にも事務所を構えている。

様々な換気システム・フィルター及び熱交換器等が紹介された。ＥＢＰＡとして初めてのテーマだけに、日本からの参加者には取り扱い専門会社も入っており、排気口のサイズなど専門的な質問も出されていた。取付けコストについては、200坪の広さで160～170万円。熱源は米国でも地域によって異なるが、日本では電気の利用を薦めていた。

4月27日～4月30日の4日間，東京ビッグサイトにて開催されるグッドリビングショーにお越しの際は，ワシントン州パビリオン内の当社展示場にぜひお立ち寄りください。

究極の断熱効果＋優れた強度＋施工の速さ＋性能の良さ

プレミア・パネル

構造用断熱パネルはきわめて価値の高い建材です。

台風、吹雪、地震から守ります。
害虫、騒音や暑・寒気など寄せつけません。
100％の防蟻済み

建築基準法第38条認定

在来・2×4・ログ・商業建物などの特殊な屋根への使用
プレカット壁及び床パネルシステム
その他EPS発泡スタイリンとR-GARD断熱ボード

集成材 合理化認定

Premier Building Systems
プレミア・ビルディング・システムズ

米国 TEL : 1-800-275-7086　FAX : 253-549-4902
4600 70th Ave. East, Fife, Washington 98424 • USA
E-Mail: todddrumm@aol.com
国際輸出責任者：ドラム・タッド

日本　〒134-0087 東京都江戸川区清新町1-1-1-26-505
TEL : 03-5675-5602　FAX : 03-5675-5610
Eメール：kojiuesato@msn.com
担当者：上里光治